

地域経済

更新:2005/06/25

【関東】

茨城県、中性子の産業利用促進で産学連携強化

茨城県は物質の詳細な構造を解析できる中性子の産業利用を進めるため、産学の連携を強化する。大学や企業などの専門家で構成する研究会を新たに2つ設置。世界最高水準の中性子研究施設、大強度陽子加速器(J-PARC、茨城県東海村)の2008年度稼働へ向けて、企業関係者らに参加を働きかける。

4月に「未来型材料解析研究会」(代表・大嶋建一筑波大学教授)を発足。これに続いて7月12日、県庁(水戸市)内で公開ワークショップを開き「中性子標準研究会」(代表・瓜谷章産業技術総合研究所客員研究員)を立ち上げる。

未来型材料解析では、例えば物質に圧力や熱を加えた際の構造変化と電気抵抗の関係を調べ、新たな超電導材料の開発などに結びつける。中性子標準研究会は、中性子を使った物質の構造解析技術や計測装置の精度向上を目指す。いずれも基礎的な実験のほか、中性子の利用法についての普及啓発にも取り組む。